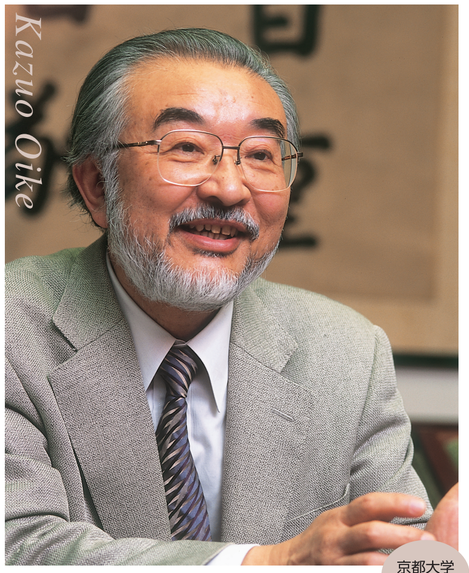
HUMAN CLOSE UP
ヒューマンクローズアップ

一生懸命に伝えれば、子どもはきっと理解してくれる。



京都大学総長

尾池和夫さん

京都大学総長として，幅広い視点から教育現場を見つめてきた尾池和夫さん。今年9月には，京都市教育委員会と共催で中学生を対象に京都大学ジュニアキャンパスを開催するなど，子どもたちに学問の魅力を伝える取組にも力を注がれています。現在では世界的な学者として知られる尾池さんですが，子どもの頃はどのようなことに関心を持ち，また学習を続けてこられたのでしょうか。今回はご自身の体験，経験をもとにした家庭教育のあり方，親の役割などについてご意見をお伺いしました。

なるほど！と納得する気持ちが好奇心を刺激する

僕のあだ名は「ナマズ」っていうんです。なぜ、そんな名前がついたかというと、小学校の先生が国語の時間に「お池（尾池）にはナマズがいるんです……」と話したのがきっかけでした。その先生は、教科書に載っている言葉一つを取り上げて、例えばナマズはどこに住んでいて、どんなものを食べるのかなど、おもしろいことをたくさん教えてくれました。知らないうちに、いろんな分野に知的好奇心が広がっていったように思います。

また、中学生のとき、ロケット工学で有名な糸川英夫先生の講演を聞く機会があったんです。そのとき、糸川先生は「ロケットというのはどんどんと落ち続けているものだ」と言うんです。ロケットが落ちる前に、地面を掘ればいい。また少し落ちれば、地面を掘る……。それを繰り返していけば、丸い地球になるというわけです。「なるほど！」と思いましたね。子どもというのは、ロケットはなぜ落ちないんだろうと疑問に感じています。でも、伝える側が「あれは落ちないものだ」と決めつけてしまうと、せっかく芽生えた好奇心が失われてしまう。一生懸命に伝えようとするから、子どもたちも一生懸命に聞こうとするんです。学校現場に限らず、家庭教育においても、こういった姿勢はとても大切なことだと思います。

京都大学ジュニアキャンパス2005の会場

教育の役割は豊かな水を常に用意しておくこと

最近、「どうしたら子どもが勉強するようになりますか？」と尋ねられますが、そんなとき僕は「黙って親が勉強すればいい」と答えています。親が率先していろいろな知識を吸収すれば、「こんなこと知ってる？」と会話も弾むうえ、子どもが何に関心を持っているのかも理解することができます。"熱心・なのに"うるさい・のはまったく別ものなんですよ。

イギリスには「馬を川に連れて行くことはできるが、水を飲ませることはできない」という格言があります。馬が水を飲みたいと思ったとき、いつでも豊かできれいな水が飲めるような環境を整えておくのが教育の役割だと僕は考えています。これは、自由な学風を標ぼうする京都大学の理念でもあるのです。「これをやれ、あれをしろ」とお尻を引っぱたいても、嫌なものはやりたくないし、反発心も生まれてしまう。けれど、そのうち必ず水を飲みたくなる時がやってくるはずです。そんなときこそ、先生や親、そして社会全体が子どもの好奇心を支えてあげてほしいと思います。

ジュニアキャンパスで本当の学問を学ぶ

今年、京都大学と京都市教育委員会が連携して、全国で初めて中学生を対象とした「京都大学ジュニアキャンパス」を開催しました。「一流の先生に、一流の講義をしてもらおう」と考えたのが取組のきっかけです。子どもは、おもしろいものはおもしろいと素直に感じる心をもっています。ジュニアキャンパスには、約百六十名の中学生が参加し、元素周期表や三葉虫などユニークな教材を使った特別授業を行って、皆さんに喜んでもらいました。「子どもがこんなに目を輝かせたのを見たことがない」と驚いた人がいましたが、今回の企画を通して、学問のおもしろさを伝えることの意義、教育のあり方を、学校の先生や親に対して発信できたのではないでしょうか。

京都大学では、本当に学問を追究したいという人材を幅広く受け入れたいと考えています。先輩に続いて、このジュニアキャンパスに参加した中学生が、自らの知的好奇心を刺激し、目的意識をもって学習を続け、将来、京都大学を目指してくれることを心待ちにしています。

プロフィール ● 京都大学総長。昭和15年,東京都生まれ。小・中・高校生の時期を高知県で過ごし,自然科学への造詣を深める。昭和38年,京都大学理学部地球物理学科卒業。志願者の少なかった「地震学」に興味を持ち,これまでの学術的考察に独自の視点を加えて,地震のメカニズムの解明や活断層調査,地震予知,防災システムなどについて幅広い研究を進めてきた。俳人としても知られ,洛中・洛外の風景を織り込んだ名句もある。俳人協会会員,氷室俳句会京都支部長。代表的な著書に「図解雑学・地震」（ナツメ社）,「活動期に入った地震列島」（岩波書店）,「俳景―洛中洛外・地球科学と俳句の風景」（宝塚出版）,句集「大地」（角川書店）など。

時を超え 美しく ひと輝く 歴史都市・京都

あしたのために

家庭教育新聞

FOR OUR FUTURE

開花する文化力 FLOWER OF CULTURE
発行：京都市教育委員会（生涯学習部家庭地域教育支援担当）
京都市中京区寺町御池 ☎075-222-3590
http://www.edu.city.kyoto.jp/kateiliki
VOL.168 平成17年（2005年）

◆もくじ

2～3 特集 子どもの「学ぶ力」を育てよう！
・充実した学習指導を目指して
・「家族の宿題」～我が家の場合～
弥栄中の人権劇 NHKで特集 全国から絶賛 森田恒雄
読書大好き！③
第40回 クロスワードパズル／インフォメーション
4 みんなで楽しくウォーキング ～世界一美しいまち・京都を歩く～
「世界遺産と源氏物語の世界を訪ねて」
●トピックス／「スチューデントシティ」・「ファイナンスパーク」平成19年1月開設／全国が注目！塔南高に日本初の「教育学科（仮称）新設！」／「京都大学ジュニアキャンパス」開催／京都青年中央会主催CAPフェスタ開催

みんなで楽しく 世界一美しいまち、京都を歩く

ウォーキング

世界遺産と源氏物語の世界を訪ねて

京都市の南に隣接する宇治市は，『源氏物語 宇治十帖』の舞台ともなった風光明媚な歴史と文化のまち。また高級茶の代名詞となっている宇治茶のふるさととして知られます。平成6年には宇治川をはさんだ平等院と宇治上神社がユネスコの世界文化遺産に登録されました。今回は深まる秋の風情を楽しみながら，見どころいっぱいの宇治川両岸を歩きます。

宇治川のほとりを散策。「あれ、魚かな？」

宇治橋から世界遺産の平等院へ

宇治橋は飛鳥時代（646年）に架けられたと伝えられる日本最古級の橋です。昔も今も宇治のシンボルです。現在の橋は平成8年に完成したもので，三の間と呼ばれる張り出しから眺める宇治川上流の風景はまさに絶景。平成16年には橋の西詰に『源氏物語』の作者・紫式部の石像が設置され，新しい観光スポットとなっています。両側に宇治茶の老舗が並ぶ平等院表参道は，環境省選定の「かおり風景100選」の道の一つです。お茶の香りを楽しみながら，世界遺産の平等院へと向かいましょう。平安時代後期（1052年）に時の関白・藤原頼通により寺院として改められ，その翌年池の中島に鳳凰堂（国宝）が建立された平等院は，かつて平安貴族たちの別荘地でした。なお，その所有者の一人は『源氏物語』の主人公・光源氏のモデルとされる源融（みなもとのとおる）です。平成13年には敷地内にミュージアム鳳翔館が開館し，平安時代から伝わる優れた文化財を間近に拝観することができます。

『源氏物語』の世界を楽しもう

府立宇治公園中の島として整備され，市民の憩いの場となっているのが宇治川中州の橘島と塔の島。橘島には源平合戦で源義経の配下が先陣争いをした故事にちなむ宇治川先陣の碑，塔の島には宇治橋の安全を祈願して鎌倉時代に建立された十三重石塔が建っています。朝霧橋を渡って『宇治十帖』の登場人物をかたどったモニュメントを見学し，宇治川上流の興聖寺（こうしょうじ）へと向かいます。興聖寺の参道は，脇を流れるせせらぎが琴の音に似ていることから琴坂と呼ばれ，もみじの名所として宇治十二景の一つに数えられます。宇治神社からさわらびの道を通って，日本最古の本殿を持つ世界遺産の宇治上神社へ。古くは一対の関係だったとされる両神社の建造物は，いずれも国宝や重要文化財に指定されています。最後は源氏物語ミュージアムに立ち寄りましょう。ホリ・ヒロシ作の人形を使った篠田正浩監督の映画『浮舟』やコンピュータを使ったゲームなど，親子で楽しみながら『源氏物語』の世界に親しむことができます。

塔の島に建つ十三重の塔の高さは15.2m。わが国最大の石石塔です

所要時間：約1時間（拝観や見学時間を含ます）
距離：約3キロ

JR「宇治」駅
▼徒歩約10分
宇治橋西詰（紫式部像）
▼徒歩約5分
世界遺産・平等院
▼徒歩約3分
府立宇治公園中の島
▼徒歩約10分
興聖寺（琴坂）
▼徒歩約10分
宇治神社
▼徒歩約3分
世界遺産・宇治上神社
▼徒歩約5分
源氏物語ミュージアム
▼徒歩約10分
京阪「宇治」駅

お茶の老舗が軒を連ねる界隈，お茶の香りだけでなく抹茶アイスや抹茶ケーキに心ひかれながらの散策となりました。それぞれが10円玉を握り締めて平等院を拝観した後は，宇治公園の中の島でお弁当です。遊び道具が何もない公園で見事に遊びまわり，午後もお疲れモードに入るどころか行くところどころでさまざまな発見をする子どもたちに，すっかり感心させられました。源氏物語ミュージアムで，大人は源氏ロマンの世界を楽しみ，子どもはパソコンのクイズに夢中になり，本当に楽しい1日を過ごせました。

子育てサポーター
稲継幸子・辰巳悦子・出口真秀・野村尚生・古田八千誉・山本眞智子

平等院
●電話／0774-21-2861
●拝観料／大人600円・中高生400円・小学生300円（ミュージアム鳳翔館の入館料を含む）

源氏物語ミュージアム
●電話／0774-39-9300
●入館料／一般500円・小中学生250円
●休館日／月曜日（祝日の場合は翌日）・年末年始

トピックス

「スチューデントシティ」・「ファイナンスパーク」平成19年1月開設

同一施設での開設は米国以外で世界初！

世界最大の経済教育団体「ジュニア・アチーブメント」（理事長：椎名武雄〈日本IBM最高顧問〉）のプログラム・教材等を活用し，京都ならではの「スチューデントシティ」・「ファイナンスパーク」を，平成19年1月，上京区の元滋野中に開設。これは産学公連携による経済教育・起業家教育等に成果を挙げる本市の「21世紀型教育コンテンツ開発委員会」（委員長：堀場雅夫〈堀場製作所最高顧問〉）の事業の一環として行うもので，小中学校段階から勤労観・職業観を育む「キャリア教育」等の更なる推進を図ります。

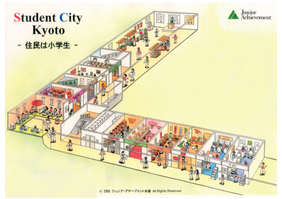
●「スチューデントシティ」（小学生対象）

銀行，商店，新聞社等からなる「街」を再現。職業体験等を通じ，社会の仕組みや経済の働き・仕事と個人の役割など「個人と社会との関係」を理解します。

●「ファイナンスパーク」（中学生対象）

「街」で，税金・保険をはじめ食費や光熱水費，教育費等の試算，物品の購入・契約等を体験。社会に溢れる情報を適切に選択収集する力や生活設計能力等を育成します。

京都市ならではの伝統文化や産業，環境等の視点を盛り込んだ独自のプログラムを開発。「街」への出店をはじめとする企業の協賛や市民・企業ボランティアの参加等，産学公の連携による最先端の教育・人づくりの姿を京都市から発信します。



全国が注目！ 塔南高に日本初の「教育学科（仮称）」新設！

塔南高では今年4月から，京都初の4ターム（学業期間）制など，生徒一人ひとりを徹底的に大切にする先進的取組を実現しています。こうした教育実践を踏まえ，平成19年4月，日本初の「教育学科（仮称）」を新設。知識技能の習得だけでなく，塔南高が大切にしている豊かな人間教育や，小・中・養護学校等での実習を通し，深い教養や熱意を持って課題に取り組む力，コミュニケーション能力を育み，未来のスーパーティーチャーを育成します。また，教育系大学等と連携を図り，教育系を中心とした大学進学を目指します。学校の先生に憧れ，「私も先生になりたい！」「子どもたちのために頑張りたい！」と夢見る中学生の皆さん。塔南高「教育学科（仮称）」は，皆さんの夢を叶えます。

高校生が先生に！ 今年塔南高で実施された小学生を招いての書道教室

「京都大学ジュニアキャンパス」開催

9月23日・24日，京都大と京都市教育委員会の共催で，京大キャンパスを会場に「京都大学ジュニアキャンパス2005～学問の不思議を知ろう～」が開催され，定員を大幅に超える160名もの中学生が参加。大盛況となりました。玉尾皓平理化学研究所フロンティア研究システム長らによる特別講義や東山紘久京大副学長による保護者向け講演の他，様々な分野にわたる29の「ゼミ」で，天文台の望遠鏡を使った金星の観察など，京大の最先端の研究を体験しました。中学生たちは難しい学問を身近に感じられる内容に熱心に聞き入り，疑問に感じたことを積極的に質問。「忘れられない貴重な体験をした。次回も絶対参加したい」などと声を弾ませていました。

京大生に負けず劣らずの真剣なまなざしでゼミに取り組む中学生

京都青年中央会主催 CAP（キャップ）フェスタ開催 ～市立小の子どもたちも大活躍！～

10月1日・2日，さまざまな協同組合の青年部で組織される京都青年中央会の主催により，CAPフェスタ「ーKyo楽。。。Surpriseー」が梅小路公園で開催されました。ステージ発表や子どもたちが職業体験のできるブースの出展など，2日間で延べ35,000人の来場者で大盛況でした。ステージ上では，朱雀第三小の子どもたちが郷土芸能「六斎念仏踊り」や音楽演奏を披露。また今回は，環境問題に対する意識の普及を図ることを目的に，「リユース食器のレンタル・洗浄」を行うとともに，近隣の梅小路小・七条第三小・六条院小・洛央小の子どもたちが「ECO宣隊」と銘打った美化啓発運動を実施。2日間で出されたゴミの量がゴミ袋わずか10袋(l)と，驚く結果となりました。

日頃の練習の成果を披露
小学生の活躍で環境にやさしい事業に

編集後記 ●心の温まる体験談を多数いただいた「家族の宿題」。家族の絆の希薄化が叫ばれる昨今，家族のふれあいを深めるきっかけになったのではないでしょうか。夏休みに引き続き「家族の宿題」を実践し，「家庭を学びの環境に」。着実な広がりがうれしいです。

R100 この新聞は古紙配合率100%再生紙を使っています

YMCK 4° 表